

科 目 名 称	韓国語 I					ビジネス・キャリア (○) オフィス情報 (○)			
英 文 科 目 名 称	Korean Language I					グローバル・コミュニケーション (○) 医療事務・医療秘書 (○)			
科 目 コ ー ド	531337	授業形態	講義	単位数	2	ホテル・観光 (○) 大学編入 (○)			
教 員 氏 名	章 大寧	年次配当	2 年次	前期					
実務経験教員担当	有 · 無	アクティブラーニング			有 · 無				
授 業 概 要 及 び 授 業 方 法	<p>韓国語講義の目的は、韓国語学習を通して韓国の歴史や文化に触れ、日韓理解の向上に役立て、豊かな人間性・社会性・国際性を育てることにある。</p> <p>韓国は日本と地理的に近く、歴史・文化において共通点が多い。韓国語は、日本語との共通点が多く、日本人にとて最も覚えやすい外国語である。しかし、韓国語学習を始めてみて、中々覚えられない、上達できないという声が多いことも事実である。韓国語習得が難しいという原因の一つは、韓国語を表記する文字(ハングル)を十分に理解していないことがある。このことは、韓国の文字ハングルを理解することが韓国語上達の鍵になることを意味している。</p> <p>韓国語 I では、初めての受講生でもハングルを十分に理解し、ハングルの読み書きを完全習得することを目標とし、子音母音の制字思想・原理、組み合わせ方、音価・発音を十分理解すること、文字と文の書き方・読み方を繰り返し練習することとする。</p> <p>講義は、テキストに沿って進めるが、受講生の理解度を高めるためパワーポイントの利用、資料配布、ペアワーク、ロールプレイ、グループコミュニケーションなどを併用する。また教員と受講生との自由な質疑応答・双方授業を重視する。</p>								
関 連 す る 科 目	韓国語 II				卒業認定(学習成果)との関連	(①, ④)			
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義紹介</li> <li>2. 韓国語と日本語の共通点 (テキスト、基礎・第1課、p6-7)</li> <li>3. ハングルの思想と原理 (テキスト、基礎・第1課、p8-9)</li> <li>4. 基本母音 (テキスト、基礎・第2課、p10-13)</li> <li>5. 基本子音 (テキスト、基礎・第3課、p14-19)</li> <li>6. 合成母音 (テキスト、基礎・第4課、p20-23)</li> <li>7. 合成子音・終声・バッヂム (テキスト、第5課、p24-29)</li> <li>8. 発音の変化(テキスト、基礎・第6課、p30-34)</li> <li>9. 挨拶 (テキスト、基礎・第7課、p35-39)</li> <li>10. 自己紹介 (テキスト、第1課、p40-45)</li> <li>11. です・ですか (テキスト、第2課、p46-51)</li> <li>12. 否定 (テキスト、第3課、p52-57)</li> <li>13. 存在 (テキスト、第4課、p58-63)</li> <li>14. する動詞 (テキスト、第5課、p64-69)</li> <li>15. 総合復習</li> </ol>								
授 業 時 間 外 の 学 修	<p>講義内容・テキストに沿って予習と復習を徹底する。(週60分程度)      講義中に出された宿題について調査し、レポートを提出する。(週60分程度)      韓国の歴史・文化に関心を持ち、情報を収集し、知識を深める。(週60分程度)</p>								
授 業 の 到 達 目 標	<p>韓国語と日本語との共通点・相違点を理解する。      ハングルの思想と原理を理解し、子音母音の組み合わせ方、読み書きを習得する。</p>								
課 題 に 対 す る フィードバック	宿題やレポート提出等は、事前・事後とも十分に説明し、受講生との意思疎通を図る。疑問・質問に丁寧に対応する。				評価方法・基準	文字の理解度・読み書き 50% 文章の理解度・基本表現 50%			
テ キ ス ト	木内明「基礎から学ぶ韓国語講座」、初級、改訂版、CD付き、国書刊行会。								
参 考 書	木内明「基礎から学ぶ韓国語講座」、中級、改訂版、CD付き、国書刊行会。 ハン・ユーウン「絵で見る韓国語」、IBCパブリシング株式会社。								
備 考	韓国語講義は、I 前期と II 後期は別々ではなく、前期と後期の1年間で完成するように構成されている。前期と後期を通して受講すること。I を受講し、その合格者に限り II の受講を認める。後期だけの受講、または後期からの受講は原則認めない。受講状況によってキャンパスごとに合併授業がある。								